

外川目地方の伝説

嶽(たけ)沢の河童

嶽沢は外川目の中居川という川の中流にある沢で、ここから流れる水は大変に清らかで、嶽沢淵に注いでいる。この淵は、今は土砂が堆積して埋まってしまいあまり深くはないが、大雨のときなどは、嶽沢からの流れが十数メートルの高さの岩石絶壁から滝となって流れ落ち、その景色はなかなか趣きがある。

昔むかし、屋号・鹿々口（かのかぐち）（日向ともいう）の佐藤家の先祖が、馬を引いて淵の廻りに放しておいた。すると、どこからともなく河童が出て来て、その馬を引きずり込もうとした。ところが、馬の体重が重かったため、逆に馬に引きずられて馬屋まで来てしまった。河童はしかたなく家人に見つからないように馬屋の木船の中に隠れていた。

佐藤家の先祖はこれを発見して、怒って斧を振り上げて殺そうとした。河童は必死に手をすりあわせて、

「雨が降り続く時や、大暴風雨のあるときには必ず教えますから、なにとぞ命ばかりはお助け下さい」

と一生懸命哀願した。佐藤家の先祖は再び斧を振り上げる気がなくなり、河童を許してやることにした。

その後、河童の言うことに嘘はなく、天候異変のときは必ず前もってたけ沢淵の水流がものすごい音をたてて鳴り響き、この音の高低によって付近の人たちは、降雨や暴風雨を予知したと伝えられている。

（「外川目

郷土教育資料」）

（別話では、河童がいたのはエンコ淵という名の上流の淵で、水流ではなく嶽沢の山が鳴ったのだともいう）